

守山まるごと活性化 議事要旨

会議名: 第11回 ホタルプロジェクト会議

日時:平成28年6月25日(土)

場所:吉身会館2階中会議室

出席者:吉身学区長、ホタルプロジェクト推進員

出席者(行政):吉身会館 高岡館長、足立 地域振興課 坪内課長

使用資料:

議題

平成28年度事業内容について

会議要旨

内容

(1)27年度事業の振り返りに付いて

- ・ ホタルの幼虫100匹を家で飼い、近所の河川に放流したが、6月に確認できた成虫の数は10匹ほどだった。なぜそれだけ少なくなったのか原因が分からない。
- ・ 会館で飼育していた幼虫がなぜ、今ほど少なくなったのか。飼育方法に問題があったのか等、原因を考えなければいけないのではないかと。当初は150匹を飼育したが、中間報告で幼虫の死骸を確認したのが30匹、幼虫が死んでいるのを確認し、取ったのが20数匹。では、あとの100匹はどうなってしまったのだろうか。それはなぜか、という思いがある。
- ・ 私は砂の中にまだ幼虫は居ると思う。ただ、大きく成長していないために砂に紛れて取れなくなってしまっている。そこで、パレットに砂を薄く張り、その上に水を張ると幼虫が出てくる。つまり成長していないから砂に埋もれてしまっているのではないかと思う。
- ・ 砂を細かくしたらエサを食べないのなら、エサのカワニナをすり潰したらホタルの幼虫も成長するだろうか。
- ・ カワニナをすりつぶしての管理は大変。以前はホタルの森資料館でカワニナをすり潰してエサとしていたが、水槽の水が汚れ、においもするし管理が難しいとの事で、現在はすり潰してエサを作っていない。

(2)28年事業の決定について

- ・ 27年度事業に加え、前回のワークショップで出された意見をふまえ、新規事業としてステップ1「推進員向けホタル学習会(講座)」、ステップ2「推進員が幼稚園、保育園、児童クラブへ出向いてのホタル学習会の実施」をひとつの案として挙げている。これは、前回のワークショップで「ホタル・自然環境保護の啓発を継続して行っていくべき」という意見が多く出された事を踏まえて考案したもの。この案について、意見交換したいと思う。
- ・ ある幼稚園では、園長先生が率先してホタルとの触れ合いを学習の中に盛り込んでいる。こういった内容かという、園が吉身学区の大きな地図を作り、保護者に「親子でホタルを見に行きましょう」と案内する。そして、見に行ったら地図中の見に行った場所にシールを貼る、というもの。こういったホタルへの啓発活動を園が率先して行っているのはすごく良い事だと思うし、プロジェクトの参考になると思い、情報提供しました。
- ・ 先日、ある保育園からホタルに関する学習会を依頼された。参加園児の年齢が低かったこともあり、紙芝居等あの手の手で話を聞いてもらおうとしたが難しかった。学習会を開く場合、低年齢児では話を聞いてもらえないのではないかと。だから、4歳児以上を対象としてはどうか。
- ・ きれいな川を保全する、という目的からいえば学習への対象は幼稚園、保育園児ではなく大人になるのではないかと。
- ・ あくまでも遊び的なものを通して、ホタルを学んで欲しい。

- ・対象者が子ども(4~5歳児)であるなら、話す内容も簡単にしたもの、また、絵を用いて(卵→成虫までの様子を絵に描いたもの)教えてあげれば関心を持ってもらえるのではないかと。紙芝居よりもっと簡単なもの。
- ・先日ホタル鑑賞会を自治会で行った際、自治会内の小学校校長が鑑賞会に来てくれた。鑑賞会ではホタルの勉強会も行ったが、校長先生からも「勉強になった」と言ってもらえた。子どもの参加者も非常に多く大盛況となったが、先生がメールで他自治会へ宣伝してくれた為に多くの方に参加してもらえた。だから先生も巻き込んでのホタル学習会もひとつの参考になるのではないかと、と思う。
- ・ホタルプロジェクトとして学習会を実施できたらと思う。
- ・飛翔調査について、調査範囲を広げてはどうか。今回の調査は昨年度と同じ箇所を調査したが、来年度はより多くの河川を調査したらより良いデータとなる。下之郷あたりは調査できていない。
- ・幼虫の飼育展示については、先ほど意見に出ていたカワニナをすり潰してエサにする、というのを大変だけれどもプロジェクトとして実践してはどうか。実践してみて検証する事で来年度以降の幼虫飼育に活かせると思う。
- ・やるとすれば、水槽とは別にバットか何かで飼育する必要があるし、確かに大変な作業である。
- ・2つの方法で幼虫飼育を行おう。実践する事が重要であると思う。
- ・学区民のつどいでホタル啓発も今年度も継続して行おう。昨年度から実施したものであるが、多くの方が関心を持ってブースに来てくれた。準備も手間のかかるものでないので、今年度も継続して実施しようと思う。→異議なし。
- ・ホタルの放流については4、5歳児(幼稚園、保育園児)を対象に前年に引き続き行う。紙芝居等を用いたホタルの成長に関する学習も昨年と同様に行いたい。
- ・吉身小学校にはホタルに関する事を学ぶクラブがある。宮城川のイベントには毎年先生が見にこられている。
- ・立入小学校では「地域の探検」という「地域の人に地域の事を教えてもらう」授業を行っている。立入にはホタルや鯉が多く生息するので、ホタルと鯉について教えて欲しい、という事で子どもたちが来た事があった。学校側も最近は「地域との触れ合い」に重点を置いた授業カリキュラムを組んでいる。
- ・先生より地域に住む人からの説明のほうが子どもたちも話を真剣に聞く、という話をどこかの小学校の先生から聞いた。
- ・各推進員の調査範囲を住宅地図で明示して、はっきりさせたほうが良いと思う。
- ・ホタルがたくさん飛んでいる所の調査という事にし、対象箇所をさらに広げ、10匹以上飛んでいるところを学区内で調査するという事に変更してはどうか。また、河川環境調査は行わないという事でどうか。→異議なし

<p>決定事項</p>	<p>① 27年度事業は方法を修正しながら継続実施 【一部変更あり】ホタル飛翔・河川環境調査 29年度以降は調査範囲を拡大し、飛翔状況に特化した調査を行う。 【一部変更あり】ホタルの幼虫飼育展示 水槽に入れて育てる幼虫と、カワニナをすり潰したものをエサにした幼虫と2パターンで飼育する。</p> <p>② 28年度事業案は異議なし。ただし、対象の子どもは4、5歳児とする。</p>
<p>次回以降について</p>	